く も を 摑 む (III)

帝國版圖內のサソリの種類

帝國產の蠍にはどんな種類があるのかを知り度い時吾々は先づ日本動物圖鑑(1927)の蛛形類全蠍目 (pp. 952—953) を參照するであらう。 其處に岸田氏はヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* マダラサソリ *Isometrus europaeus* キヨクトウサソリ (異名トクササソリ・ツクシサソリ・マンシウサソリ) *Buthus martensii* の3種を圖說されて居る。第1のものは八重山群島及び臺灣 第2のものも八重山群島及び臺灣, 第3のものは朝鮮 (平壤) 及び臺灣に棲むことになつて居る。舊臘出版された 熱河省產蜘蛛類全蠍目」(第一次滿蒙學術調查研究團報告第五部第一區第四編第十輯) に於て岸田氏は多年の蘊蓄を傾倒して居られるがそれに據ると帝國產の蠍は次の樣である。

キヨクトウサソリ *Buthus martensii* Karsch, 1879

マダラサソリ *Iscmetrus europaeus* (Linnaeus, 1758)

ヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775)

標準和名及び學名に變更無く2は國內では八重山群島・臺灣・內南洋に, 3は國內では八重山群島・臺灣に棲息することにも變化ないがキヨクトウサソリの分布範域に關する記述は刮目に値する。 キヨクトウサソリが滿洲・北支・南支に產することは確實であるが朝鮮及び臺灣に居るかどうかゞ怪しい。 日本動物圖鑑に平壤を擧げられたのは岸田氏の所藏標品のラベルの誤記に基くものであると明記して居られる。 野田貞一・青山哲四郎兩氏 (1928) 村田懋麿氏 (1936) 等は朝鮮の諸地に分布することを記して居るが岸田氏は在鮮の高橋明・平田榮吉兩氏の談から眞に棲息するのは黃海道の黃州だけのことを知られ同地產の標品を多數入手された。 而も同地の蠍は人爲的に齎されたもので自然の分布でないと傳へられる。 疑心暗鬼になつたら朝鮮には本來分布しないと考へる方が正しいかも知れない。 臺灣產のものは岩川友太郎氏 (1906) の報告があり岸田氏も恒春產といふ標品を明治41年に標本商から購入して今日も所藏されて居るが 其の後一向に採れた記錄が無い。 昭和10年の岸田氏の臺灣御旅行の際も1頭も見つからず在臺の森下薰博士も今まで臺灣の何地からも入手し得ないと語られたさうである。 曾ては居たのが今日は絕滅したのかそれとも本來居なかつたのか少し心細い次第である。 岸田氏の熱河の報告を覽得ない方々の爲に以上のことを御紹介する。 (高島春雄)

其の後紹介者はキヨクトウサソリに關する1文獻として昨年12月發行の北平博物彙誌 (Peking Natural History Bulletin) vol. xiv, part 2 に登載 (pp. 103—118, 2 pls.) の P'an Ch'eng-pin (潘承彬) —— Morphology and Anatomy of the Chinese Scorpion

Buthus martensi Karsch なる報文を覽るを得た。

昭和14年7月伊豆下田の蜘蛛

私は數次に亘り靜岡縣下田町及び其の近傍で蜘蛛を採集し之に尾形藤治，豐增勝夫氏等の御厚意による採集品をも加へ大體16科98種に達した。之等は悉く植村利夫氏の査定を經たものであるが幼體などの爲種名を定め難い幾つかの種類も含まれて居る。尙他に査定者のお手許に殘つて居る幾つかの種類があるであらうから既に 100 種內外の蜘蛛が fauna 究明の美名の下に好事家の犧牲となつた譯である。昨年7月下旬久し振りに下田を訪ふの機會を得た。併し天候に惠まれず正味1日半にもならぬ採集だし，他の色々の動物にも注意して一時に數兎を逐つたにしては蜘蛛は存外に好成績で，例の如く植村學兄に査定して頂いた結果は總べて 33種，中に下田からは新な1科6種が含まれて居たのは氣をよくした（新加入の動物群には學名を附して區別してある。コガネグモとアシダカグモは態と採取せず）。

ウヅグモ科 1. マネキグモ 2. トウキヤウウヅグモ *Uloborus tokyoensis* Kishida ヒメグモ科 3. ヒメグモ 4. オホヒメグモ 5. ムナボシヒメグモ *Theridion sterninotatum* Boesenberg et Strand 6. アカキサフラフグモ *Argyrodes miniaceus* (Doleschall) 7. ヌサグモ 8. ナリヒラグモ *Narihira delicata* Kishida コガネグモ科 9. コガネグモ 10. ナガコガネグモ 11. イヘオニグモ 12. ヤマシロオニグモ 13. サツマノミダマシ 14. ゴミグモ 15. ヨツデゴミグモ 16. シロオビトリノフンダマシ 17. デヨラウグモ 18. ヤサガタアシナガグモ 19. シロガネグモ ミヅグモ科 Argyroneticlae 20. カチドキグモ *Bansaia nipponica* Uyemura ドクグモ科 21. ハラクロドクグモ 22. ウヅキドクグモ ササグモ科 23. ササグモ カニグモ科 24. ハナグモ 25. ヤミイロカニグモ 26. アサヒエビグモ 27. シヤコグモ 28. シロアヅチグモ ハヘトリグモ科 29. アダンソンハヘトリ 30. カラスハヘトリ フクログモ科 31. エドコマチグモ *Chiracanthium japonicum* Poesenberg et Strand アシダカグモ科 32. アシダカグモ シボグモ科 33. シボグモ

今回の採集には加藤正世氏と終始行を偕にし 氏の眞摯にして周到な採集振りに啓發せられる處多大であつた。吾々の行動の輪廓は加藤正世・高島春雄「伊豆下田採集行」（昆蟲界 vol. vii, no. 69, pp. 700–704, 1 pl. 1939）により窺はれ度い。氏御自身も蜘蛛を採集し其の多くを獨特の乾式標品に仕上げられたのは右報文の圖版寫眞により知ることが出來る。其の中に在るアヲオニグモ *Araneus pentagrammicus* (Karsch) は私自身未だ下田で觀察したことの無い種類であるから之を加へ既知 **17科 105種**となつたのである。併しまだまだ幾多の種類の見逃されて居ることは新進氣鋭の關口，辻兩氏の採品目錄を對照されても容易に肯けると思ふ。何れ近く季節的分布表を添へた伊豆下田產蜘蛛目錄を公にする意圖である。（高島春雄）

昭和14年9月伊豆下田の蜘蛛

昨年9月24日に下田で採集した蜘蛛を後に植村利夫氏に鑑定して頂いたところ下の33種と判つた。此處に科別の一覽にして揭げるが他に 2, 3 未解決のものもある。學名を書き加へたのは從來高島春雄氏により記錄されなかつた種類 卽ち下田から始めての種類でそれが10種ある。之等を加算して下田產は既知 **17科115種**に達することになつた。御鑑定下さつた植村氏に深謝する。

ウヅグモ科 1. トウキヤウウヅグモ 2. カタハリヒカゲグモ 3. ウヅグモ一種 ヒメグモ科 4. ベリンダキサフラフグモ *Bellinda nipponica* Kishida 5. アカキサフラフグモ サラグモ科 6. ヘリジロサラグモ *Linyphia albolimbata* Karsch コガネグモ科 7. ナガコガネグモ 8. ハツリグモ *Acusilas coccineus* Simon 9. ヨツデゴミグモ 10. ホシコガネグモダマシ *Larinia punctifera* Boesenberg et Strand 11. サツマノミダマシ 12. シロガネグモ 13. ツクネグモ *Ulesanis sagaensis* (Boesenberg et Strand) (今回の採品中の逸品) ミヅグモ科 14. カチドキグモ キシダグモ科 15. イワウイロハシリグモ 16. スヂアカハシリグモ *Dolomedes saganus* Boesenberg et Strand 17. ハシリグモ一種 18. キシダグモ一種 ドクグモ科 19. ハラクロドクグモ タナグモ科 20. コクサグモ 21. タナグモ一種 カニグモ科 22. シヤコグモ一種 23. キハダエビグモ *Philodromus spinitarsis* Simon ハヘトリグモ科 24. アシブトハヘトリ 25. チヤスヂハヘトリ 26. マミジロハヘトリ *Evarcha albaria* (L. Koch) 27. アダンソンハヘトリ 28. デーニツツハヘトリ *Hasarius doenitzi* Karsch 29. イソハヘトリ *Menemerus himeshimensis* Doenitz et Strand フクログモ科 30. コマチグモ一種 31. イタチグモ アシダカグモ科 32. アシダカグモ (本種のみ9月25日) シボグモ科 33. シボグモ

(關口晃一)

昭和14年夏の伊豆下田の蜘蛛

昨年7月27日から8月14日まで, 8月25日から同月27日まで, 9月27日から同月30日まで, 3回下田に滯在する機會を得て餘暇に蜘蛛の採集に努めた。第1回も蜘蛛採集は8月には入つてから着手したから第1回, 第2回共8月の蜘蛛と云へると思ふ。其等2回の成績は標品を植村利夫氏に鑑定して頂いた結果次の15科55種になることが判つた。之等の內學名の附記あるものは從來下田から知られなかつたものでそれは2科8種ある。採集地域は下田町鍋田の文理大臨海實驗所近傍を主とし町外れの寢姿山 (萬藏山) や下田富士にも足を延した。後二地での蜘蛛の採集は私を以て嚆矢とするかも知れない。關口氏の報告では下田產既知17科115種とあるが私のも加へると今や下田町內外に達する蜘蛛にして名稱の判然としたもの **19科118種**になつた譯である。今後も機會ある毎に採集や觀察を怠らない積りで居る。どうしたものかトタテグモ, ヂグモの類は未だ誰も採

集出來ない。ハグモ科 1. ハグモ一種 ウヅグモ科 2. トウキヤウウヅグモ 3. オホヒメグモ 4. カタハリヒカゲグモ ヤマシログモ科 Scytodidae 5. ヤマシログモ *Scytodes nigrolineata* Sim n ヒメグモ科 6. オホヒメグモ 7. ヒメグモ 8. カレハヒメグモ 9. コノハヒメグモ 10. ヌサグモ 11. トビヰサフラフグモ *Argyrodes fur* Boesenberg et Strand サラグモ科 12. サラグモ一種 ヒラタグモ科 Urocteidae 13. ヒラタグモ *Uroctea compactilis* L. Koch コガネグモ科 14. コゲチヤオニグモ 15. ヤマシロオニグモ 16. ナカムラオニグモ *Araneus cornutus* Clerck〔昭和11年7月當時東京高師生徒小島貞男氏が下田で採集した1頭のナカムラオニグモを高島氏はお貰ひになつたが，後日に到り此の標品は東京で小島氏が採られたのではないかとの疑問を生じたので高島氏の總目錄(未刊)からは削除されてあつた。高島，尾形，豐增，關口諸氏は何れも下田から本種を採集して居られなかつたが今回私は下田に産することを確認し得た〕 17. サツマノミダマシ 18. コガネグモ 19. ナガコガネグモ 20. コガタコガネグモ 21. シロガネグモ 22. コシロガネグモ 23. トスヂオニグモ 24. アシナガグモ 25. ヤサガタアシナガグモ 26. ゴミグモ 27. ヨツデゴミグモ 28. ジヨラウグモ 29. マルゴミグモ 30. ビヂヨオニグモ キシダグモ科 31. イワウイロハシリグモ ドクグモ科 32. ウヅキドクグモ 33. ホシドクグモ *Lycosa astrigera* (L. Koch) ササグモ科 34. ササグモ タナグモ科 35. コクサグモ 36. クサグモ 37. タナグモ一種 カニグモ科 38. ハナグモ 39. シロアヅチグモ 40. シヤコグモ 41. タンバグモ 42. マユタテアヅチグモ〔今回のは變種にあらず〕 43. エビグモ一種 44. ワカバグモ ハヘトリグモ科 45. アダンソンハヘトリ 46. ハヘトリグモ 47. アシブトハヘトリ 48. チヤスヂハヘトリ 49. ハヘトリグモ一種 *Sitticus* sp. 50. ネコハヘトリ *Evophrys nipponicus* Kishida 51. アカアリグモ *Myrmarachne japonica* (Karsch) フクログモ科 52. イタチグモ 53. コマチグモ一種 アシダカグモ科 54. アシダカグモ シボグモ科 55. シボグモ

9月下旬の分は次の18種程で何れも下田より既知の蜘蛛に屬する。

1. ヒメグモ 2. オニグモ一種 3. ビヂヨオニグモ 4. コガネグモ 5. マルゴミグモ 6. ゴミグモ 7. ササグモ 8. タナグモ一種 9. コクサグモ 10. タンバグモ 11. ハナグモ 12. エビグモ一種 13. マユタテアヅチグモ 14. ワカバグモ 15. ネコハヘトリ 16. ハヘトリグモ一種 17. アダンソンハヘトリ 18. コマチグモ一種 (辻 忠二郎)

品川の蜘蛛追加

本誌 Vol. 4, No. 2 に發表した品川産蜘蛛にハツリグモ *Acusilas coccineus* Simon を追加する。通計71種となつたわけである。尙ツリガネヒメグモ *Theridion angulithorax* Boesenberg et Strand の住居は發見したが蜘蛛は未採集。 (町田德治)